

令和2年度 さいたま市立和土小学校 学校関係者評価書

さいたま市立和土小学校

学校関係者評価委員長 橋本 昭一 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 9人
- (2) 実施回数 2回(第1回 R2.10.23、第2回 R3.3.2)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

(1) 保護者アンケートより

学校の教育活動に関する項目についての評価が高く、保護者や地域と連携した教育活動が進められている。子どもの安全や健康について十分配慮した教育活動に取り組んでおり、保護者からも信頼を得ている。学校の教育方針や教育活動を積極的に公開しており、家庭との連携・協力が図られている。地域での身近な人へのあいさつの励行や外遊びの啓発を家庭・地域で連携して改善を図る必要がある。

(2) 児童アンケートより

授業がわかりやすく楽しいと感じる児童が増え、学習には意欲的に取り組んでいる。ルールやマナーを守り、与えられた役割や責任をしっかりと果たそうと取り組んでいる。友達となかよく生活したり困ったことを相談したりすることができ、充実した学校生活を過ごしている。進んで読書をするようになった児童が増えた。さらに、発達段階にあわせて、本の内容についても意識するなど、学年に応じた読書指導をより工夫していく必要がある。自分の考えを進んで発表することができる児童が増えたが、教育活動全体での指導の工夫・改善を続けていく必要がある。

(3) 教職員評価より

教職員の多忙化が報じられる中、業務改善を図り、成果をあげられている。心と生活のアンケート、スマイルアンケート、スマイルタイム等を効果的に活用し、生徒指導・教育相談等の問題の早期発見・早期対応につながっている。また、偶発的な問題にも迅速かつ適切に組織的な対応ができています。コロナ禍において、話し合い活動、体を密着させるような活動、給食、休み時間の遊び等に制限があり、人と人との関りから得られる心を育みづらい状況である。和土小スタイルを職員で相談し、児童が楽しく学校生活を送ることができるように工夫する必要がある。施設・設備面の充実を今後も計画的に図っていく必要がある。

(4) その他

コロナ禍においても、様々な工夫の元、子ども達が楽しく学校生活を送れていることが素晴らしい。焼き板体験やサッカースクールなど、様々な実体験を重ねることができていて、子どもの成長につながっている。あいさつに関して、児童の評価と保護者・教職員の評価に差が見られる。あいさつの大切さやよさを子どもの目線で具体的に教える必要がある。

学校関係者評価を受けた学校の対応

今後も、組織的な授業研究により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。家庭・地域との連携や学習規律・生活規律の定着、豊かな自然環境を生かした体験活動や異学年交流など特色ある教育活動を工夫し、今まで以上に笑顔あふれる学校づくりを目指す。家庭・地域と連携し、地域における児童のあいさつ等の豊かな関わり合いを広める。コミュニティ・スクール制度導入年度として、地域の皆様と情報を共有しながら和土小学校運営協議会を発足させ、学校、地域、家庭が協働して様々な取組を進めていく。

さいたま市立和土小学校長 辻 美由紀

